

## 「生涯で一番きつい」 月の手取り 12 万円から 7 万円に コロナ禍で 3 度転職 追い込まれるひとり親

2022/6/1 沖縄タイムス

< 沖縄の困窮世帯、3 年前より増加 小中調査で 29% 困窮家庭ほどコロナが深刻な影響 > から続き



コロナ禍は生涯で一番つらかったと話すシングルマザーの女性 = 31 日、那覇市内

【写真】中学生 2 人と母親の 3 人が暮らすアパートの玄関。食料支援などを受けるが生活は厳しい

沖縄県が 31 日に公表した「沖縄子ども調査」で、経済的困難を抱える親子が、長引くコロナ禍や物価高騰でさらに追い詰められている実情が明らかになった。とりわけひとり親世帯の厳しさは増しており、収入が減った中 2 の保護者は 51・7%。ふたり親世帯より 10 ポイント以上高い。国の全国調査と比べても 17 ポイント以上高く、シングルマザーからは「生涯で一番きつい」「受けていた支援が打ち切りになった」と切実な声が漏れる。

### ■ 追い込まれるひとり親

沖縄本島南部で高校 2 年の娘を育てる女性 (44) は、コロナ禍で 3 度の転職を余儀なくされた。腎臓に持病がある娘のため、長年勤めた雑貨店を辞めて実入りのいい夜の飲食店で働き始めた直後の 2020 年 2 月、県内でコロナ感染が確認された。

マスクを外して接客しなければならず、勤務中は「ずっと不安」。重症化リスクがある娘が心配で、同年秋には弁当屋に転職した。感染が広がると客足は落ち込み、月の手取りは 12 万円から 7 万円に減った。別の飲食店に職を求めても、収入は月数万円。苦しくなる一方だった。

ひとり親を対象にした県の家賃貸付制度や児童扶養手当を利用したが、貯金も切り崩さねばならず「絶対に触らない」と決めていた娘のための預金にも頼らざるを得なかった。お年玉もためていた口座。「伝えるのがすごくつらかった。この 2 年間は生活をどう守るかばかり考えていた」と声を震わせる。

6 月からサービス業の正社員として働くことが決まり、ようやく希望が見えてきた。収入は月 16 万円ほど。「娘が高校卒業後にやりたい道に進めるよう頑張りたい」と前を向く。

### ■ 弁当配布に希望者殺到

中 2 の娘と中 1 の息子がいる本島南部の母親 (48) は、20 年 5 月に離婚した。精神障がいがあって働けないため、月約 15 万円の障がい年金が頼みの綱。貯金はほとんどできない。今春の息子の進学時には制服代などに約 8 万円かかったため、家賃を払えなくなり「待ってもらっている」

相談機関を訪ね歩き、社会福祉協議会などから食料支援を受けるが、生活は苦しい。民間団体から受けていた週 2 回の弁当配布はこの 4 月、申し込み殺到で定員オーバーになり、受けられなくなった。

「困っている人が増えているのだろう」と身につまされる。「支援は広がっているが間に合っていない。もっとうまく情報を届け、支えてほしい」と望む。